

広報広聴常任委員会会議録

- 1 日 時 平成30年8月1日(水)
10時55分開会 11時48分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：北村光明 副委員長：大谷昭宣
委員：佐藤幸一、原 紀夫、口田邦男、中島里司
議長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学、主任：鵜田瑞恵
- 5 説明員 なし
- 6 議 件
 - (1) 議会だより第154号の発行について
 - (2) 視察研修報告書について
 - (3) 議会だより紙面構成の見直しについて
 - (4) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

委員長（北村光明）：全員協議会に引き続き広報広聴常任委員会を開会する。暑い中大変お疲れのところと思うがもう少し時間をお貸しください。

（1）議会だより第154号の発行について

委員長：議件1、議会だより第154号の発行について。前回の委員会の中で確認したことに基づいて校正原稿がつくられている。事務局から説明をお願いします。

鶴田主任：（校正原稿について説明）

委員長：事務局から説明のあった紙面内容について質問、意見はあるか。

佐藤局長：全員協議会で、議会活性化等の町民アンケートを行って議会としての方向性は、定数は現状維持の13人、報酬も現状維持となったが、この辺をアンケートと絡めてここに入れる必要があるかどうか協議していただきたい。できるだけ早く町民に知らせるといっているのであれば、今回入れたほうがいいのかと思っている。

委員長：今回議会活性化特別委員会で取り組んだ町民アンケートの結果を踏まえて今後の対応について全員協議会の中で議論してきたが、アンケートの結果と合わせて掲載したほうがいいのか意見をいただきたい。ただアンケートの結果だけでいいのかどうか。

中島委員：確かにアンケート結果を速やかに載せるのはいいことだと思って見ていた。全員協議会で議会活性化特別委員会からの方向性を了解したわけだから、スペースがとれるのかどうか分からないがもしできるのであれば、大きな理由付けというか結果を報告したほうがよい。その後また何かいろいろ聞かれることがあると思うが、そのときには議員個人で説明しながらと思っている。答えが出たのだから出していただいてもいいと思う。

委員長：今アンケートの結果を受けて議会活性化特別委員会、全員協議会の中で議論し、方向性を出してきたことについて何らかのかたちで報告したほうがいいのかということだが、報告するのかについて意見をいただけるか。

中島委員：今事務局で前回の広報広聴常任委員会に基づく原稿をつくってもらったが、今言ったことは今からでも載せられると理解してよいのか。

佐藤局長：今町民アンケートを3頁にわたって掲載しているが、たとえば問17の部分をちょっと圧縮した中で掲載するとか、そんなに大きいスペースでなければ紙面的にはなんとか確保できるかと考えている。

委員長：スペース的には確保できるということ。文章は事務局で考えていただけるのか。

佐藤局長：そう決めていただければ。

委員長：ではそういう方向性で第154号に載せていく。編集後記の関係を副委員長にお願いしてきたが、これについて何か意見があるか。

原委員：今日も議会だより紙面構成の見直しについての表題をあげたりしているので、後段の「議会だよりの作成に努力していきたいと思います」と書いている分について、現実に広報広聴常任委員会ではそういう動きをしているということをそこに若干加えて、「議会だよりの作成のため種々検討しています」とか、そのほうがかえっていいのではないかという気がするがいかかが。

委員長：具体的な項目とかレイアウトについて検討していると書くと。これについてはそれでよいのか。事務局と副委員長で文章の修正をお願いしますということでは。

大谷委員：よい。

委員長：そういうことで議会だより第154号の発行についてはこのとおりでいきたいと思う。ほかに特段何かあるか。

（なしの声あり）

（2）視察研修報告書について

委員長：議件2に入る。前回の委員会の中で委員会報告書については委員長と副委員長でたたき台をつくって皆さんに提示するというので、今お手元にある分で示しているがこれについて確認のため5

分ほど休憩する。

【休憩 11:10】

【再開 11:14】

委員長 :再開する。委員長と副委員長でまとめた報告書案について皆さんからお気付きの点、文章に付け加えること、削ることは何かあるか。報告書のほかに、事前の質問項目として視察先に回答をお願いしていたものについても、文書でいただいた仁木町と、栗山町については口頭での回答を載せてある。これについても、添付資料として報告書につけたいと思う。そのほかに委員個人の報告書も載るのか。

佐藤局長 :今までの総務産業常任委員会や厚生文教常任委員会の報告書を見ていただければ分かると思うが各委員からの報告書は特に載せていない。委員会としての報告書を委員長名で議長に提出するというかたち。今回配付の報告書がそういった様式になっていない。本会議で朗読を行うことになるので正式に議長に報告する内容としては「2. 視察の概要」の「(1) 説明内容」の栗山町と仁木町の部分、最終頁の「全体の所感」といったところでよいかどうか確認していただければと思う。

委員長 :議長宛に出す委員会としての報告書の構成だが、若干文章を整理して最終的には視察の概要の説明内容と所感ということでよいかどうか皆さんから意見はあるか。

(よいという声あり)

委員長 :そのようにする。その他、別紙として事前質問項目と回答を添付する

(3) 議会だより紙面構成の見直しについて

委員長 :次に議会だよりの紙面構成の見直しについてということで、今後検討してひとつのかたちとして残していかなければならないと思うが、見直すべき点とか加えるべき点とか、そういった意見をいただきたい。項目ごとに、例えば表紙だとかとやっていくか。

口田委員 :新年度に向けてのことを言っているのか。

中島委員 :視察のまとめの最後に、「今後の広報紙発行に際しては清水町議会広報発行要綱を整備し、改めて議会広報編集申し合わせ事項を整備し」と書いてあるが、これを整備するという理解でいいのか。

委員長 :この名称でいいかどうかというのはべつであるが、そう。

中島委員 :そうであれば単発で表紙だとか中身だとかという協議ではなくてきちんと段階を踏まないといけない。特によく分かりやすく書いてあった仁木町の資料もいただいているのでそういうものを参考にしてわが町でもそういう方向に持っていくということが分かっていると、次回から順番立てて協議ができる。今漠然として紙面をどうするかという話になるとばらばらになる。いただいた資料を参考にして、順番立ててわが町としてはどうしていくかというものを委員会の立場の中で決めていかれたらいいのかと。そうしたら次の委員が変わってもそれに沿って事務局との連携をはかっているながらできると思う。

佐藤局長 :今も広報発行基本要綱や細則を持っているので最終的にはそういった見直しになってくると思うが、視察した中で具体的に広報紙をどうしていくのか。実際は表紙は写真を入れたほうがいいのかという意見が出ていたが、その他の具体的な意見がない。具体的な意見を聞いた中で要綱案といったものをつくっていききたいと思う。その前段として記事ごとに、表紙はどうか、一般質問はどうか、という部分について各委員が考えていることを出していただければ、それに基づいてある程度要綱案をつくっていきけるのかと考えていた。全く具体性がないので事務局としても動けない。具体的に、表紙は写真にする、一般質問は一人一枚にするだとか、ある程度各委員の考えを聞いた中で要綱等の内容は決めていければと考えている。

委員長 :今事務局長から説明があったが、研修に行ってみて委員の皆さん方が感じている「こういうことはやらなければだめだ」というものが、印象の強いものなど特段そういうものがあつたら出してもらって、それを柱にしながら議論し、実際に出している議会だよりとの比較の中で整理していく必要があるかと思うので、意見をいただきたい。

中島委員 :実際に今回視察して、表紙の写真、一般質問も一議員1頁なら1頁で、広報紙の発行頁数は年間で決めていた。号数によっては多いときもあるし少ないときもある。無理して頁を確保しなくてはいけないというのではなく、記事が少ないときは減らして、逆に増やさなければいけないときもあ

る。そういうことで頁数については柔軟性を持たせておいてもいいのではないか。もう一つ特に感じたのは、何らかの方法で町民に投稿してもらう。待っているのではなくてこちらから投稿をお願いしていくということも大事かと。例として「ひとこと」とか「絆」とかそういう欄を設けていた。そういうものもあったほうがいいのかと思う。文章はできるだけ短くわかりやすく。写真や似顔絵、景色的なもの何かあれば、これはセンスが必要で誰でも描けるわけではないが。そういうものも挟んで、伝えることはきっちりと伝えなくてはならないから、空きをつくるという意味ではなくて、紙面に余裕を感じる、ゆったり見て読んでいただけるような紙面を目指しているのではないかという気がした。今後の広報紙については今現在そんな考え方をしていたところ。

委員長：今5点ほど意見が出されたが、ほかに皆さんからあるか。

口田委員：一番気になったのは、いかに引き付けるということが問題で、そのためにはいかに字数を少なくするか。写真によって町民に議会だよりに興味を持たせる。仁木町議会のものには興味を引くことが書いてあったが、まさにそのとおりでと思う。見るからに字が多くて読む気にならない。写真の活用と字数を少なくする。内容は写真による表現が大事だと私は思っている。ほかにもいっぱいあるが、差しあたってはそういうこと。

委員長：ほかにあるか。

大谷委員：細かく言えばいろいろなことがあると思うが、せつかく前回視察に行った栗山町、仁木町の素晴らしい議会広報紙がある。これを大いに参考にして、一つ一つ考えるのはなかなか難しいと思うが、真似てでもいいと思う。全部をどうするこうすると言っても難しいが、見出しなどのよい例を参考にしながら当てはめて清水町なりの内容に変えていくというやり方が一番やりやすいのではないかと思う。

委員長：今大谷委員が言われたことは、例えば表紙は何々町のこういった表紙がいい、例えば行政報告はこういったかたちがいいというもの議論するたき台とか題材を用意するということか。

大谷委員：清水町の議会広報紙も同じような内容は書いていると思う。紙面の構成だとか写真の問題だけだと思うので、真似をしていくようなかたちでつくっていくのが一番やりやすいのではないかと思う。

口田委員：いろいろな他町のものを勉強してくるのも結構だけれども、私が一番気になるのは清水町農協の広報紙。これは非常に人気があって良いので参考にしたいほうがいい気がする。中を開いて見てみたいという気になる。やはり表紙は子ども。今回はどこの子どもが載っているのかと話題になる。身近なところで参考にもらってきて。

委員長：口田委員がもらってきてくれるのか。

口田委員：もらってくることは可能。参考にしたらいいと思う。

原委員：農協のホームページに出ている。

委員長：あと何かあるか。なければ議会だよりの構成について若干議論していきたい。たとえば一般質問をどうするのか。視察先では1人1頁みたいにするとか。

中島委員：今委員長が言われているのは次回からでもそうするべきではないかという思いがあって言われていることか。

委員長：そうではない。

中島委員：急遽できた委員会とはいえ来年1月の任期までに役割は果たさなくてはいけない。先ほど言ったたき台とか、それをある程度事務局で聞き取っていただいた上で今言った話が具体的に出てくると思う。要綱なりマニュアル的なものも清水町議会としてはどこまでつくっておくか。そして次期の常任委員会に決めとして引き継がなくてはいけない。それをしっかり委員会の中でやっていかなくてはならないのではないかと思っていた。

委員長：その前段として皆さん方の意見を聞きたいと思っただけの話。

佐藤局長：委員長が意見を聞きたいと言っているのは、これまでの事務局主体ではなくて議員もより携わるという部分で広報広聴常任委員会を組織していると思う。それで今後、改選後になると思うが、より議員が関わった中で議会広報を作成していくという方向付けなので、各委員が考えていることを聞いた中で案を練っていききたいということだと思う。広報広聴常任委員会の目的、スタートはそこだったので、各委員の考えを聞いてということになるかと思っている。

委員長：例えば今の議会だよりに載っている顔写真の部分イラストにしたほうがいいのか、そういった話も含めて皆さんが考えていることを言っていたきたいということ。

佐藤委員：一般の人は字を好まない。全面に写真を入れて、写真の中に字を入れるというやり方もある。そうすると何をやっているのかというインパクトがあって、見てくれるような気がする。写真を一面に入れるというやり方が見てくれる第一条件ではないかという気がする。

委員長 : 例えば栗山町は写真でタイトルと中に書かれていることのちょっとした見出しというか項目が表示されている。そういったこともいいのではないかという意見である。154号でいえば行政報告や工事請負契約の締結などが書いてあるが、これだけでは一般町民が読んでもよく分からないので、これをもう少しサブタイトルみたいにつけて説明が必要だとか、そういった意見もいただきたい。紙面構成の見直しということで行くとそういったこともお願いしたい。先ほどシリーズを組んで町民の声を載せられるようなことを考えるべきだという話もあった。

中島委員 : 今のお話の中でたまたま工事請負ということが出てきたが、工事の内容云々ということを含めてお話されたと思う。それは行政がやる役割で、私どもはあくまでも契約に対しての賛否。今みたいに1項目になってくると、工事請負の内容等については町のお知らせ版に載っている。意見があれば載せることは必要だが、私どもは議決機関としてその賛否状況、工事の詳細までは載せる必要はない。行政がやるべきところと私どもの議決の部分の報告という捉え方をしていけばいろいろな面で整理されてくるだろう。役割の分担としてどこで果たしているか。果たした部分を報告していくという捉え方を、工事請負等々の中身についてはあまり触れなくてもいいと思っている。

委員長 : 次回には、議論するたたき台としての項目をきちんと挙げて順序立ててやっていく必要があるのかと思うが、その前段として研修の中で感じたこういうことを議論していくべきだということ、得たことを基にして皆さんのご意見をいただきたいと思っている。

加来議長 : 今皆さんからある程度の意見を出していただいたので、それを次回まで整理して今委員長が言ったように栗山町や仁木町の資料も参考にしながら一つずつ対応していくしかないのではないかと。ある程度視察先でやってきたような方向がいいと皆さん言っているので。

委員長 : 今議長からアドバイスをいただいた。そういう進め方でいきたいが、皆さんから意見はあるか。

原委員 : 利府町の広報紙がいいなと思って見ているが、A4全紙をカラーで載せるのではなくて、写真そのものを4分の1強くらいにして、方向を変えたりいろいろ工夫をして見た人に「ちょっと変わったものをつくったぞ」というイメージを植えつけられるようなことはどうしても必要ではないかと思っている。先ほど言われたように似顔絵を多く使う。これは引き付けるのに非常に重要ではないかと思う。いろいろ調べてみたら似顔絵師という技術的な専門家がいて、一つの写真について安く8千円くらい、高く1万円というのがある。清水町でも高齢者学級あたりで似顔絵師を呼んで古い歌を歌いながら絵を描いたりしている。職員で器用な方がいれば応援してもらおうという方法もあるが、以前は芸術高校があったときは良かったがそれはないので、別な方法でいろいろと工夫したほうがいいのではないかと思う。いつも最終頁に議会の動きを載せているが、広報研修等に行くと大概これは必要ないと言われる。こういうのもちょっと考えたほうがいいと思う。同じように編集後記も絡むが。

委員長 : こういうことがあったということ載せなくてもいいということか、もっと細かくやれということか。

原委員 : 載せなくてもいいということ。これを一般的に見て、町民が「埼玉県から視察に来るのか。厚生文教常任委員会をやるのか」ということは必要ないとよく広報の研修会では言われる。

委員長 : それでは皆さんからいただいた意見等を踏まえて、次回検討していく項目をつくるようにしていきたいと思う。事務局との共同編集の中で議員が率先してやるべき点ということで皆さんの考えはないか。例えば見出しは議員がつけたほうがいいとか。最終的には事務局の協力を得ないとできないことだとは思いますが、次回議論するためのものを事務局と相談しながらつくって提示したいと思うし、資料も用意したいと思う。そういうことで進めてよろしいか。

(よいという声あり)

(4) その他

委員長 : その他何かあるか。

佐藤局長 : 予算に関わる部分だが、今回の154号はアンケート結果を3頁にわたって掲載したので12頁になっている。現行の予算では各号10頁分しかない。今回2頁分オーバーして、どこかで8頁にできればいいが、次号で議会報告会の結果も掲載するのでたぶんそれなりの頁数が必要になってくると思う。中身はもう一度精査するが状況によっては補正予算を提案するかもしれない。今の作り方の中での頁数増ということでの補正予算を考えなければならぬのかと思っている。

委員長 : この際表紙をカラーにしてしまうところまではいっていない。ほかになれば次回の日程を決める。日程は事務局と相談しながら決めるということによいか。

(よいという声あり)

委員長 : 以上で広報広聴常任委員会を終わる。